

いたやなぎ 町議会だより

平成29年
3月定例会

第13号
2017. 5. 12



主な内容

- 5人が一般質問 P2~6
- 常任委員会審査他 P7
- 予算特別委員会 P8~9

おらほちの自慢！
～子どもの安全守ります～

板柳南小学校交通整理員

町民の声を町政に

第5回定例会一般質問

第5回板柳町議会定例会が3月6日から15日までの日程で開催されました。3月9日に行われた「一般質問」に、5名の議員が登壇し質問しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。



佐藤 洋治

平成29年度当初予算

問 平成29年度当初予算では、町長の目指す「より豊かで、より元気な、より快適なまちづくり」にどう生かされ、重点事業は何か。また、予算編成に当たったの所見は。

答

(成田町長)

重要事業については、人口減少対策に重点を置き、板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略を基に取り組む。定住を促し、安心して子どもを産み育てる環境づくりのために、支援策を拡充する。新婚者の家賃の助成、子育て世帯で住宅取得した場合の固定資産税相当分の助成など、新たな支援を行う。さらに、弘前大学との連携事業も拡充し、リンゴ赤肉品種の共同研究に加え、ふるさとセンター

の入込客数の増加策を調査研究し、観光客や交流人口の増加につなげたい。また、スポーツ振興基金、通称福士加代子基金を創設し、国内外で活躍する選手を輩出できるよう取り組む。産業振興では、国、県の補助事業等を活用し、地域おこし協力隊事業なども継続して、地域の振興力強化に努める。新年度も、町の将来に向けて「より豊かな、より快適な、より元気なりんごの里板柳」を目指し、各分野の取組を進めたい。予算編成に当たり、りんごの里板柳の魅力をもっと力強く発信し、町に対する関心や注目を高めるため、まずりんご大使として町出身の振分親方(元高見盛)にご協力をいただき、りんごの里板柳を全国に向けて応援活動をお願いしたいと考えている。また、ふるさとセンターをイルミネーションで飾り町のイメージアップを図る。これらにより町の魅力や活力づくりを加速させ、板柳に住んでよかったと思える町にしたい、という思いを持って新年度の予算編成を行った。

ふるさと納税

問 ふるさと納税の現状と今後の取り組みは。

(成田町長)

答

平成28年度は、三月一日現在94件、最終の寄附額は8百万円の見込みである。返礼品については、リンゴを中心になりんごワークの商品が主流で、寄附金額に対する返礼品購入比率は25%。新年度から代行業者によるふるさと納税支援サービスを利用することで寄附金額の増加を見込めるほか、ネットを通して全国に町の魅力や特産物のPR効果が期待できるものと考えている。

問

今改築しようとしている学校に対する目的を持たせたふるさと納税を進めてみては。

答

(成田町長) 使用目的を明示して寄附を募ることも必要だと考えているので、検討したい。

板柳中央病院

問 現在の経営状況と県がリーダーシップをとって進めている青森県地域医

療構想への準備状況は。

答 (成田町長)

経営状況は単年度収支決算額で平成24年度から黒字経営となっている。青森県地域医療構想の準備については、昨年県内6医療圏域ごとの自治体病院等の機能再編による機能分化、連携の方向性が示されたところである。板柳中央病院では本構想の施策、地域の実情を盛り込んだ新病院改革プランを作成中である。

問

使用している機器に古いものもあるので、万が一に備えて、機器のメンテナンス等をきちんと行う必要があるのでは。

答

(成田町長)

地域住民の健康と命を守るという重要な施設であり、医療機器の整備は大事。今新病院改革プランの中にも機械等については更新すると明記されているので、計画に基づきながら進めていきたい。

上下水道

問 現在の加入率と供給量。また、下水道未整備地区の今後の計画は。

答

(成田町長)

平成27年度加入率は上水道が97.4%、下水道は公共下水道区域が74.9%、農業集落排水事業区域における東部(沿川)地区が57.9%、飯田地区が63.7%、中央(小阿弥)地区が43.6%である。次に、上水道の供給量は年間総配水量が129万3,582立方メートル、年間総有収水量が116万5,294立方メートルで、有収率は90.1%である。下水道整備の今後の取組については、平成29年度において新たに事業認可を取得し、平成30年度をめどに未整備地区の早期着手に向けた作業を進めている。

問

未整備地区の所は何年に整備するかを示していただければならないと思うが。

答

(成田町長)

未整備地区については、できるだけ早く整備をしたいということで、29年度に認可をとって、そして30年度から事業着手という段取りを進めているので、ご理解いただきたい。



三戸 玲子

過疎地域の指定

問

板柳町が過疎地域に指定されることのメリット、デメリットは。

答

(成田町長)

メリットは、各種事業を行う際に国の補助のかさ上げや有利な過疎地域自立促進のための地方債が活用できるなど、国の財政支援措置があること。デメリットとは、過疎という言葉がマイナスイメージを与えることが考えられる。

問

藤崎町と鶴田町は過疎地域に指定されず、当町が指定される原因は。

答

(成田町長)

人口要件と財政要件の二つがある。今回対象になったのは人口要件である。前回の平成27年の10月の国勢調査で大きく人口が減ったことが原因だと思われる。

男女共同参画

問

我が町の各種委員などにおける女性の参画率は、現在と5年前、そして10年前と、その推移は。

答

(成田町長)

内閣府の調査の対象となる13の組織で見ると、10年前は委員が128名に対し女性が21名の16.4%、5年前は124名に対し女性が21名の16.9%、現在は121名に対し女性が24名の19.8%と、微増している状況にある。

問

このほか町独自の20の組織を合わせた現在の参画率は、委員が434名に対し女性が150名の34.6%となっている。

答

(成田町長)

国では、2020年まで30%程度を目標にしている。町でもそれを目標にしたい。

ひきこもり対策

問

子ども、大人のひきこもりの状況や人数を把握しているか。

答

(成田町長)

大人は把握していない。プライバシーに配慮しなくてはならない問題であり、非常に難しい課題となっている。ひきこもり等の事実が確認された場合、状況によっては町内会や民生委員、人権擁護委員などの関係者と連携をとりながら対応したい。そのほか、県の専門機関等と情報共有を行い、さまざまな手段を用いて解決すべき課題である。

問

小、中学校では不登校という言葉で扱っている。不登校については、現在、小学校で3名、中学校では不登校傾向も含めて7名、合わせて10名いる。欠席の状況を確かめ、学級担任、養護教員が連携して対応に当たっている。

問

大人のひきこもりは、なかなか難しいが、保健師が家庭訪問したり、参考になる冊子を配るなど何か行動すべきでは。

答

(大井健康推進課長)

心の悩みや法律に関する問題等の相談にのる、「こころの健康相談」を毎月開

催している。保健師も同席しているので、相談していただき、ひきこもりがないように対応したい。

町誌編さん

問

町誌は、発行してから四十年が過ぎた。新たに加えるためには四十年分が必要となり、編さんの時期が来たのではないかと思っているが、町長の考えは。

答

(成田町長)

町誌が町にとって大切な資料であり、後続の町史の作成が必要であることも十分認識している。いつの時期とは今申し上げられないが、作成の方法や体制、また内容はどのような構成がよいかなど、今後よく考えたい。



歴史を感じる板柳町誌



今 浩 一

定住者支援

問 現在当町で実施している定住者支援事業は、多くの市町村で行っているものばかりのように感じる。他でも取組の少ない給食費の無料化や高齢者の運転免許証自主返納者に対する支援などを行うつもりはないか。

答 (成田町長) まちづくりに関する各種の取組は今町に必要なものかどうかということを中心に考えている。町独自の定住者支援では、子育て世帯の定住サポート事業のほか、子育て世帯の住宅取得に対し固定資産税相当分を助成する事業なども新規に実施する。また、婚活イベントに対し助成を行っている。このほか町村会において県内の町村が共同で首都

圏に向けたテレビ番組を製作してPRを行うことも予定しており、他市町村と連携、共同した取組も移住、定住対策に効果的であると考えている。

問 学校給食の無料化、運転免許返納者に対する支援について考えは。

答 (成田町長) 学校給食の無料化、高齢化に伴い運転免許自主返納者への支援も、人口対策の一つになると思う。今後さらに検討したい。

問 町民の転出も防ぐ必要がある。そのためにも町独自の事業を実施して欲しい。そこで無料化の提案をしたが、出来ない理由は。

答 (阿部学務課長) 給食の無料化は、自治体の判断になる。教育委員会で検討はなかった。

問 予算の問題以前に、検討もなかったのか。

答 (阿部学務課長) (阿部学務課長) 検討してこなかった。保護者から要望はない。

問 運転免許証を自主的に返納した方に少しでも支援をできないものか。

答 (成田町長) (成田町長) 個々に考えるのではない

く、地域の高齢者福祉全体の中で考えていきたい。自主返納した方に支援することは、今は考えていない。

融雪側溝整備

問 現在一部完成町内も含めて13町内に整備されている融雪側溝事業だが、今後町として、さらに計画を進めているのか。

答 (成田町長) (成田町長) 融雪側溝については、将来的には整備しなければならぬ課題の一つであるが、財政的な問題も抱えており、今後研究したい。住宅密集地の除排雪など、除雪体制の強化を図りたい。今までの財源は。

問 (村上地域整備課長) 国の事業で60%補助の交付金を活用した。現在その事業内では融雪側溝の整備について計画はない。

問 次の計画で、融雪側溝の整備事業は行えるか。

答 (村上地域整備課長) (村上地域整備課長) 現段階では次の事業の制度もまだ不透明である。今後財政状況を見きわめながら理事者と相談したい。

問 多くの公共施設の老朽化が進み、補修などが必要とする施設がある。この施設等の今後の利用は。

答 (成田町長) (成田町長) 古い施設も多く、維持改修等も喫緊の課題として認識している。大規模改修や用途変更、廃止、統廃合、複合化など、個々の状況を見ながら考えたい。

老朽施設等の利用計画

問 多くの公共施設の老朽化が進み、補修などが必要とする施設がある。この施設等の今後の利用は。

答 (成田町長) (成田町長) 古い施設も多く、維持改修等も喫緊の課題として認識している。大規模改修や用途変更、廃止、統廃合、複合化など、個々の状況を見ながら考えたい。

世界記録達成などの活用

問 昨年12月に行われたリングоを使っての世界記録挑戦を、見事に達成したことは、町、町民にとってもすばらしいことだと思う。達成後の活用はどのようか考え、また何か具体的な計画はあるものか。

答 (成田町長) (成田町長) 町が一丸となった成果は、一時の思い出にとどまることがなく、りんごの里板柳を外に向けて発信する題材の一つとしたいと考えている。記録達成後には町の広報紙やホームページで速

報し、役場正面玄関ホールには認定証や写真を掲示するなど、多くの皆さんの目に触れるような広報活動を行っている。また、広報活動にはギネス社側の制限があるので、制限を考慮しながら町のPRに役立てたい。例えば名刺やパンフレットなどにできるだけ活用して、りんごの里板柳を発信したいと考えている。

問 せっかくみんなで達成したこの記録、町のPRにもなることであり、ぜひ前向きに、具体的に進めたい。進めたい。

答 (成田町長) (成田町長) 先ほど名刺あるいはパンフレットということを紹介したが、このほかにも1,101という数字にこだわって何かできないかというのを常に考えている。議員の皆さんからも何かいいアイデアがあったらぜひ私に教えていただきたい。これからのまちづくりは大々的に活用しながら町を全国に発信していきたいので、皆さんのアイデアもお待ちしております。



松森俊逸

町政運営

問 新年度予算において前町政と違う成田町政の独自性特色はどのようなものか。

答 (成田町長) 人口減少対策を重点に置いた各種事業に取り組むほか、りんごの里板柳の魅力を引き出す方法を模索する。町の魅力を外に向けて発信し、関心を持っていただけるよう、新たな取組も進めていく。当町出身の振分親方(元高見盛)にご協力をいただきりんご大使のPR活動事業やふるさとセンターのイメージアップのためのイルミネーション設置事業など、りんごの里板柳に注目を集めるような取組を展開していく。また、スポーツ振興基金、通称福士加代子基金を創設し、福

士選手に続く国内外で活躍する選手を輩出できるように、各種の取組を進めていく。新年度もこうした全ての取組が、「より豊かな、より快適な、より元気な、りんごの里板柳」の実現につながっていくものと考えている。

人口減少対策

問 人口減少対策についてどのような事業を行っているのか。

答 (成田町長) 産業振興、定住促進、子育て支援、健康長寿の実現など、人口減少のスピードを緩やかにするための取組を進めていく。

中心商店街の振興対策

問 中心商店街の現状をどのように考えるか。また、弱体化した各商店会を行政主導で統合再構築し不断的イベントを企画すべきと考えるがいかがか。

答 (成田町長) 当町だけでなく全国の地方商店街においても非常に厳しい状況である。

税手続きの簡素化

問 障害者所有の軽自動車に係る軽自動車税の減免を承認した場合、減免要件事項に変更がない限り次年度以降は申請不要とすべきと考えるがいかがか。

答 (成田町長) 県税では普通自動車税については5年ほど前から次年度以降については状況をはがきで確認をすることで自動更新している状況であるので、町としても対象となる方々の利便性の向上を図るため、担当課に調査するように指示したいと考えている。

民生委員・児童委員の配置状況

問 民生委員・児童委員の欠員地区を兼任する暫定担当委員はいるのか。また、民生委員の定数を定め、民生委員の厚労省の定数基準に基づき世帯数が配置基準を上回る地区はあるのか。

答 (成田町長) 欠員が生じていないため兼任する委員はいない。

基準を上回る世帯数の地区は七地区となっている。

子育てワンストップサービス

問 国において本年7月より全自治体で子育てワンストップサービスを導入するとしているが、当町における準備状況はいかがか。また、町民への周知をいかに図るべきと考えるか。

答 (成田町長) セキュリティ対策や運用体制など総合的に判断して導入時期を考える。運用開始時には、回覧、広報等でお知らせする。

高校再編

問 板柳高校の存続についてどのように考えるか。

答 (成田町長) 当町に非常に重要であると考え存続を強く要望している。

学校給食

問 食材高騰を理由に3学期は米飯持参の回数を週1回から2回にしている

がどの程度の予算不足が生じたのか。この措置を3学期のみとしているが新年度からはいかがするのか。

答 (木村教育長) 小学校全体で約39万円、中学校は約21万円不足が見込まれた。新年度は従来どおりの予定。

学校施設の除雪体制

問 学校施設の除雪はどのように対応しているのか。

答 (木村教育長) 学校施設の除雪については、地域整備課の協力を得ながら、降雪状況に応じて対応している。除雪機械で対応できないところは用務員が行っている。

学校薬剤師

問 当町における学校薬剤師の配置状況はどうなっているのか。

答 (木村教育長) 管内の小中学校の学校薬剤師として、板柳中央病院勤務の町の職員を教育委員会が委嘱して、配置して対応している。



成田 肇

平成29年度予算

問 平成29年度予算編成に当たり、町長の所見は。

また、重点事業については板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げている4つの柱、「未来につなげる産業づくり」、「住みたいと思えるまちづくり」、「地域で支える家族づくり」、「みんなを取り組む健康づくり」、これらについての具体的な取組を進めているのか。

(右の質問についての町長答弁は、2ページ2段目の答弁と重複するため、紙面の都合上割愛しました。)

農業問題

問 町の基幹産業である農業に関連した取組により、新たな担い手の発掘や首都圏等からの交流人口の

増加を図る手段として農業ビジネススクールに着目し、当町での開校を目的としているが、その事業内容は。

答

(成田町長)

りんごの里農業ビジネススクール事業は、板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略に関連する事業であり、当町において農業ビジネススクールを開設して、農業を通して都市住民との交流人口をふやし、ひいては移住者の増加や新たな農業関連ビジネス創出につなげるために実施している。事業の実施に当たっては、福岡県朝倉市でアグリガーデンスクール&アカデミーを開設した実績のある業者に委託して行っており、これまで首都圏などから参加者を募ってお試し体験ということで体験型オープンスクールを2回開催、農業をさまざまな角度から研修できるようにカリキュラムが組まれている。この事業は、平成29年度において当町に農業ビジネススクールの本格開校を目指しており、その開校準備の2力年は国の地方創生関係の交付金を活用して行っているが、今後

は委託業者が独自に開校し、自主的に運営していくことになる。町としても、農業ビジネススクールが当町に本格的に開校され、都市との交流がさらに進み、地域の活性化につながるものと考えている。

問 いま一度この開講の目的と事業内容をお知らせいただきたい。

(成田町長)

農業に関連して定住につながるような都市との交流を目的とする事業となっている。首都圏あるいはその他の地域からも来ている。そういった新たな担い手、さらにまた首都圏からの交流人口の増加を図って人口減少対策につなげたい。

問 これは町でやるのではなく、委託業者を選定し開校するということが。

(成田町長)

九州の福岡県朝倉市で朝倉校という学校をつくっているところが、2つ目というところで板柳校をつくって、都市から人を呼んで農業を勉強し、できれば当町に移住して住んでもらう。そして、地域の活性化につなげていく。そういった事業になる。

問 この事業は何力年間も継続していくのか。また、学校に入校できる対象者とは、農業者なのか。

(成田町長)

これは29年度に開校して、今後、続いていくといった事業である。

答 (田沢産業振興課長)

農業ビジネススクールの受講対象者は、広く一般に受講者を募るということで聞いている。

問 広く一般ということは、農業者ではなく、自営業者でも、誰でもいいということか。

答 (田沢産業振興課長)

そのとおりである。

公共下水道整備

問 財政難のため公共下水道事業を工事途中で廃止を決めた自治体が見受けられるが、当町においての公共下水道整備の今後は。

答 (成田町長)

今後の予定としては、現在進めている公共下水道の事業認可の期限が平成29年度となっており、今後下水道事業を進める上で事業認可の更新が必要となることから、新たに事業認可を取得し、平成30年度をめどに未整備地区の早期着手に向けた作業を進めているところである。

問 まだ未整備の地域について伺いたい。

答 (対馬上下水道課長)

下水道の未整備地区は、小幡、掛落林、石野、野中、赤田の5地区となっている。

問 石野、野中、赤田、掛落林、小幡というのはどのように着工するのか。

答 (対馬上下水道課長)

小幡、掛落林については、現在大蔵町まで公共下水道が通っているため、そちらのほうでつなげていくということを考えている。石野、野中、赤田については、現在三千石まで公共下水道が通っているため、そちらのほうを接続する方向で現在考えている。



マンホール蓋にもりんご

各 委員 会 審 査

総務産業厚生 常任委員会

ふるさと納税

Q ふるさと納税の返礼品について、現在はりんごワイク商品となっているが、地元のお米や地酒など、幅広く募ってみてはどうか。

A 板柳町観光物産協会があるので、協会に依頼し、協力できる商店などのカテゴリー作成等を検討したい。

消防団

Q 近年消防団員がかなり少なくなっているという話を聞いた。現在の状況はどのようなになっているのか。また、出動した際の日当はどのようにになっているのか。

A 出動した際の費用弁償は町の例規に記載されており、2千円となっている。団員の定数については条例で310名と定められ、現在

は300名弱で活動されている。

町ホームページ

Q ホームページのトップページから、各情報を探すまでの行程がわかりづらいのではないか。例えば、部署毎の整理ではなく、ライフステージ毎、子育てや、移住といった区分けにした方がわかりやすいのでは。

A 全国市町村のホームページと比較すると、後進的な部分もあるように思う。いずれ大規模な修正も必要であると思う。

福祉建設文教 常任委員会

農道舗装

Q 今年度農道舗装を行うのはどの地域になるのか。

A 今後現地を精査の上、今まで要望が来ている中から地域のバランスを考慮した上で決定したい。

水路等の管理

Q 水路等の法定外の土地にある立木等で、倒木のおそれがあるものについて、町に伐採等の要望はあるか。またどのように処理しているか。

A 町の管理になっている部分ではりんごの木に支障が出る等の話があり、危険度や周辺の環境を判断し伐採などしている。

板柳中学校 改築特別委員会

◎第1～2回

委員長、副委員長の選定

議員全員を委員とし、委員長に佐藤洋治議員、副委員長に三戸正市議員が互選された。

プロポーザル募集期間

Q 設計業務の参加表明書の受付期間の長さは適切か。

A 一般的なプロポーザルの公示から業者の表明書の提出まで約2週間。国土交通省や他公共機関も同程度で、標準的な日数である。

プロポーザル審査委員会

Q 審査委員会は設計業者の選定までの委員会か、設計等に入っていく委員会なのか。

A 業者を選定するまでの委員会である。

議会の動き (1月～3月)

開催日	会議等名	
1月	16日	西北津軽郡町議会議長会協議会 葛西議長
	//	町例月出納検査(監査) 北島議員
	18日	議会だより編集特別委員会
	20日	議会運営委員会 (定例会案件)
	25日	議会だより編集特別委員会
2月	31日	議会だより編集特別委員会
	10日	町例月出納検査(監査) 北島議員
	20日	西北五広域福祉事務組合議会定例会 葛西(幸)議員
	22日	弘前地区環境整備事務組合議会定例会 佐藤議員
	//	津軽広域連合議会定例会 成田(陽)議員
	//	弘前地区消防事務組合議会定例会 今議員
	23日	板柳中学校改築特別委員会
27日	議案説明会	

開催日	会議等名	
3月	1日	議会運営委員会 (定例会案件)
	6日	本会議(定例会日程、町長の提案理由等)
	7日	町例月出納検査(監査) 北島議員
	9日	本会議(一般質問・5人)
	10日	総務産業厚生常任委員会 (所管事務調査)
	//	福祉建設文教常任委員会 (所管事務調査)
	13日	予算特別委員会
	14日	予算特別委員会
	15日	本会議(委員長報告、採決、閉会)
	//	板柳中学校改築特別委員会
	29日	議員全員協議会 (町諸案件等)

予算特別委員会 総括質疑

平成29年度の各会計予算を審議するため、議員全員で構成する予算特別委員会（委員長・長内良蔵議員／副委員長・今浩一議員）を設置し、3月13日・14日の2日間にわたり詳細に審議しました。

数多くの質疑がありましたが、その一部を紹介します。

※平成29年度各会計予算の詳細については、広報いたやなぎ4月号に掲載されています。

■質問 三戸玲子委員

板柳中学校の卒業式に出席した際気づいたことだが、体育館に校訓が掲示されていないかった。体育館はみんなが集まる場所、式典の機会などに、校訓を見て子ども達は育つのだと思うので、掲示したらどうか。また、校歌は掲示されていたが一部破れていた。そこも補修等すべきでは。その他、門の塗装がはげている部分も目立っていた。いい環境を子どもたちに与えることが大事では。

■木村教育長

環境面について相談はまないため、確認したい。

▲成田町長

校訓は板柳中学校の教育方針あるいは魂であり、なにとすれば、適当な場所につくるべき。校歌の破れや門も補修したい。

■質問 成田陽光委員

同じく中学校について、グラウンドの手前の水はけが悪く、大分前から話があったはずだが、今後の対策は。

▲阿部学務課長

校舎の改築等の状況も見ながら考えたい。

■質問 成田肇委員

防犯灯設置工事について、全町内設置されたのではないか。今回の設置工事の場所はどこか。

▲田澤総務課長

飯田地区のもので、通学等にも利用されている状況から、設置要望があったもの。

■質問 成田肇委員

そこに設置すると、全町内を網羅したことになるのか。

▲田澤総務課長

基本的には完了しているという認識である。ただ、その後のさまざまな町内会の活動あるいは実態に応じて、その都度相談を受ける。

■質問 今浩一委員

りんごの里のりんご大使の概要について。今回振分親方（元高見盛）に大使になつてもらうとのことだが、実際具体的にどのような内容か。

▲田澤総務課長

町を内外にPRしていくということから、非常に有名な当町出身の振分親方にご協力いただいで大使に就任していただくもの。今後の活動として想定されるものは、首都圏において物産展が行われる際に、PR活動を行ったり、大使就任の際には、当町に来ていただきながらふるさとを語るような形でのものを考えている。

■質問 今浩一委員

依頼回数を予め決めていいのか。あるいは随時、ぜひ来てほしいという声があれば、率先して来ていただ

けるのか、どのように考えているのか。

▲田澤総務課長

予算的には当町に1回来町、また、首都圏で2回イベントに協力依頼という予算を想定している。

■質問 久米田孝佐雄委員

多額のたばこ税が町に入っているが、最近、町の施設は、ほとんどたばこは吸えない状態である。先日クラス会でふるさとセンターのコテージを借りたところ、今年から禁煙だと言われた。これほどの税金が入っているため、分煙という対応には出来ないものか。

▲葛西ふるさとセンター所長

2カ所喫煙所を設けているが公共施設ということと、時代の流れということでお客さまにご協力をお願いしたい。

■質問 松森俊逸委員

ふるさとセンターのイルミネーションについて具体的にどこにどのようなのを整備するのか。

▲葛西ふるさとセンター所長

コテージ前の樹木、芸芸館前、青柳館前の3カ所を予定。ふるさとセンターのイメージアップ、冬期間のふるさとセンターへの誘客の強化、また、子育て世代の親子を初めとした町民の憩いの場をつくっていきたいと考えている。

■質問 佐藤洋治委員

粗大ごみの最終処分場は、あと何年ぐらいいもつのか。

▲中村町民生活課長

あと6年ほどの予定。

■質問 佐藤洋治委員

板柳町の過疎指定にあり、人口増加対策に取り組む必要があると思うが、今すぐできるのは交流人口の増加だと思う。その観点からも、ふるさとセンターに入る道をバイパスから直接通したら、交流人口増加の効果があるのでは。

▲成田町長

やはり板柳町はふるさとセンターを核にした発展、交流というのが大変大事だと思うので、ソフト面とハード面の両方でふるさとセンターの活性化を図る、機能を強化する事を考えたい。

■質問 三戸玲子委員

議会と税の申告が重なり、庁舎前駐車場が大変な混雑である。健康診断のときも、駅に止めて歩いている状況であることから、近隣の空き地等を役場来庁者や、観光客向けの駐車場用地として確保してはどうか。

▲成田町長

売り地の所有者があり、いろいろ調査の必要もある。当面は町職員による駐車場整理で対応したい。

■質問 葛西清人委員

町たばこ販売協議会は、

どのような協議会か。販売促進のためのものか、禁煙推進のためのものか。

▲石澤税務会計課長

町のたばこ販売業者で組織している協議会で、昔のことを私は詳しくないが、当時は、町に税金が入るため、たばこは地元からということでたばこの販売促進を促すために支援してきたものと考えている。最近、分煙活動や、たばこに対するイメージアップのために町内の清掃活動等に変わりつつある状態である。

■質問 葛西清人委員

近年世の中が変わり、たばこは非常に嫌われている。大きなたばこ税が入っているのに対して町の政策としてたばこをやめる、施設の喫煙は認めないという今はやりの行政になってきている一方、売る促進の協議会に補助金を出している。何か矛盾していると思うが。

▲成田町長

協議会について調査したい。ただ、今葛西委員が指摘されているように、公共施設内、基本的には禁煙ということで皆さんにもご協力をいただいているが、やはりこれからのこと、町民の健康を考えると、大事だと思つので、それについてご理解いただきたいと思つ。

■質問 松森俊逸委員

町民祭と同時期に行われる各行事について、人出が少ないように感じる。これを統合するような工夫はできないものか。

▲田澤総務課長

同じ時期に町民祭と同じ形でやることも内部で想定した経緯はある。ただ、スペースの問題等で現在の状況となっている。委員の提案を踏まえ、理事者や各課と相談、調整しながら考えたい。

■質問 成田陽光委員

図書購入費についてほぼ3年間変動がないと認識しているが、図書のリクエストが多ければ補正などでも増額するものか。

▲佐藤生涯学習課長

図書については、補正等はなかった。妥当な金額かどうか、過去の経緯も含めて調べたい。

■質問 北島弘美委員

予算編成に当たり、各課からいろいろ要望があったと思うが、要望を全部かなえるとしたら、どの程度の予算になるのか。限られた範囲内の予算で町の活路を見出すためには、腹をくくることが必要だと私は思つ。

▲成田町長

この町に対する思いを強く感じた。大変心配していただいていることが伝わつた。

た。まず、町を活性化していくというのは、ふるさとセンターの強化だと思つ。弘前大学と連携し、地域資源を活用したまちづくりを生かしたい。町の体制を今整え、弘大と行政一体となつたまちづくり、活路を見出していくような施策を今考えている。

▲村上企画財政課長

一般会計の歳出では61億9,500万円の要求があった。

■質問 今浩一委員

弘前大学の連携事業について、その内容は。

▲村上企画財政課長

今年度はリンゴの赤肉品種の栽培及び商品化研究と、タルトタタンなどに使用される調理用リンゴの普及栽培方法を確立及びリンゴ加工菓子などの加工技術の開発、この二つの事業を予定している。

■質問 今浩一委員

来年度、再来年度というのは、また違うものをやっけていくのか。それとも、これがまず確立するまで継続なのか。

▲村上企画財政課長

何年先とまでは言えないが、一年では終わらないと考えている。

■質問 成田肇委員

強い農業づくり交付金について、りんごワーク研究

所のジュース製造のラインの更新とあるが、これは搾汁だけではなく、その後の工程も含まれるのか。

▲葛西ふるさとセンター所長

搾汁だけではなく充填も計画している。

■質問 成田肇委員

せっかく新しい機械を取り入れるのであれば、リンゴジュースを紙のパックに詰められないものか。

▲葛西ふるさとセンター所長

今のところ紙パックについては、検討していない。賞味期限が非常に短く、廃棄分が出るためである。

■質問 葛西幸男委員

マイナンバーカードについて、何%の町民が持っているのか。

▲中村町民生活課長

今現在交付している人数は862名で町民の6.1%に当たる。

■質問 葛西幸男委員

個人情報悪用のおそれなどから、不要という声もあるのか。

▲中村町民生活課長

不要という話は聞いていない。必要な人に関しては申請に来られているという状況である。

■質問 松森俊逸委員

町の施設の火災保険や、車の任意保険に関して、どのような手順で決めて予算化して、そしてどこが受注

しているのか。
▲田澤総務課長
県あるいは市町村全体を総合した県の町村会など市町村を総括する部門で火災保険あるいは車輛保険等の保険があり、そちらに一括して加入している。

議会を傍聴しませんか

次の定例会は6月です

<議会日程のお知らせ(予定)> ※開催時間はいずれも午前10時です。

月日		内容
6月2日(金)	本会議	特別委員会報告等、提案理由の説明
6月5日(月)	本会議	一般質問
6月6日(火)	常任委員会	総務産業厚生・福祉建設文教
6月7日(水)	本会議	委員長報告等、質疑、討論、採決

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。

日本の四季、春・夏・秋・冬。一年を通してさまざまな顔があります。

暖かさが出てくる春の日、暑い日差しをあびる夏の日、肌寒くなってくる秋の日、寒さが厳しい雪降る冬の日。その四季のある日本、板柳町で暮らす私達。

毎年、繰り返される中で、どんな天候にも負けず、子どもたちの通学・下校時に、道に立ち、子どもたちの安全を守ってくれる人達がいいます。その人達に一言。

皆さんのお陰で、今日も元気に子ども達が通学できます。当たり前のような事に思われませんが、継続する事の大変さ、難しさ。

感謝でいっぱいです。いつも笑顔で迎えてくれて、ありがとう。

(副委員長 今 浩一)

【発行責任者】

議長 葛西 清人

※第14号発行予定は8月10日頃です。
議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。

一目で分かる審議結果

◆第5回定例会

議案	結果
町道の路線廃止について	全員可決
町道の路線認定について	全員可決
青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村総合事務組合規約の変更について	全員可決
板柳町スポーツ振興基金条例の制定について	全員可決
板柳町地方活力向上地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例の制定について	全員可決
板柳町職員の育児休業等に関する条例及び板柳町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町職員の給与に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町税条例等の一部改正について	全員可決
板柳町福祉センター条例の一部改正について	全員可決
板柳町介護保険条例の一部改正について	全員可決
平成28年度板柳町補正予算（一般会計ほか7件）	全員可決
平成29年度板柳町予算（一般会計ほか7件）	全員可決

祝 旭日双光章受章 ～2017年春の叙勲～



やすだ ひろし
安田 弘 前議長 (高増・84歳)

板柳町議会議員として8期30有余年の長期にわたり在職し、平成16年3月から議長を3期務められ、議会の活性化はもとより住民福祉の向上、地域の振興発展に寄与されました。

元議会人として、素晴らしい快挙、心からお喜び申し上げます。今後とも、十分に健康に留意され、町政の発展を見守り続けて下さることを切に希望いたします。おめでとうございます。

議長 葛西 清人